

## 東奥日報

2023年(令和5年)6月3日(土曜日) (23)

## 六ヶ所で機械工学講義

八工大 エネ産業支える若手支援

## 村産業協議会と連携



機械工学基礎を学ぶプログラムについて説明する坂本学長<sup>㊟</sup>。右は千田会長

八戸工業大学(坂本禎智学長)は本年度から、六ヶ所村内の企業でつくる村産業協議会(千田昇会長)と連携し、機械工学の基礎を学ぶプログラムを同村で開講する。エネルギー産業の現場で働く若手技術者らのスキルアップを支援し、課程を修めた受講生には同大が履修証明書を交付する。2日、同大で記者会見を開いて概要を発表した。

初年度の受講生は20〜40代の男女11人。60時間のプログラムを2年間かけて受け、振動と機械の構造の関係、材料が力を受けたときの変化などを学んでいく。村内の会場に同大の教員が出向き、本年度は6〜9月の土曜日に各月1〜3回、開講する予定。オンラインのツールを活用して疑問点を教員に聞けるようにするなど、働きながら学ぶ

受講生をサポートする。受講料は年額6万円で、一部を同協議会が補助する。開講に至った背景には、人手不足から村内企業が技術者の確保に苦慮している事情がある。現場で働いている中には機械工学を専門に学んだことのない人たちも一定数いるといい、千田会長は「お客さんと現場で

触れ合っている作業員が高度な話をできるようにすれば、(企業と顧客の)双方にメリットがある」として、大学レベルの知識を得る重要性を強調した。坂本学長は「このプログラムを通じて若手の機械技術者の育成をサポートし、社会貢献をしたい」と語った。(新村菜穂)

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」